

## グスタフ・アドルフ期スウェーデン史研究の道具箱

古谷大輔

はじめに

本稿の目的は、グスタフ・アドルフ(正しくはグスタフ2世アドルフ(Gustav II Adolf))期のスウェーデンを研究する際、もっとも基本的な諸文献を整理し、紹介することである。本稿でのグスタフ・アドルフ期スウェーデン史の範囲とは、厳密には彼がスウェーデン国王に即位した1611年からリュッツェン会戦で彼が戦死する1632年までを指している。ただしグスタフ・アドルフ期前後の時期は、スウェーデンが近世のバルト海世界に覇権を築いた、スウェーデン史でいう「大国の時代(stormaktstiden)」の前半を占める重要な時期なので、紹介の際にはグスタフ・アドルフ期に限定せずに、広く17世紀前半のスウェーデンを研究する際に有益となりうる情報を提供しよう留意した。

その際、文献紹介のジャンルとしては以下の4種類に限った。

- 1: 文献目録・研究動向紹介
- 2: 史料所収文献
- 3: 概説
- 4: 研究雑誌・補助文献・その他(インターネット情報など)

本来、研究入門で紹介するに相応しい文献としては、各研究テーマ別でまとめられた基礎的な研究文献や動向紹介文献などもあげられるよう。そのような個別テーマに関連したスウェーデン史研究は、わが国では皆無に等しいが、当然のことながらスウェーデン本国やヨーロッパでは膨大な数がある。しかし、今回は紙面の制約や筆者一人の負える能力という点から、そのようなものは除外した。本稿は、欧米の歴史学界では盛んに研究され、近世ヨーロッパ史上での重要性が認識されつつも、我が国ではほとんど顧みられることのなかった近世スウェーデンを検討するうえで、まずはじめに手にすべきごく基本的な文献を紹介することに専念した。したがって個別的な研究テーマの動向紹介や文献紹介は別の機会に整理するものとする。なお、各々の文献は、巻末の文献目録において一括して整理した。

### 1. グスタフ・アドルフ期研究に関する文献目録と研究動向紹介

#### 【スウェーデン語による文献目録と研究動向紹介】

あらゆるスウェーデン史研究者が最初に手にすべき、もっとも基本的かつ古典的な文献目録としては、S.E. ブリング(S.E. Brim)による *Bibliografisk handbok till Sveriges historia* が挙げられる。ただし、このハンドブックは、単に文献目録として有用なだけではない。その前半部分では、スウェーデン史研究に必要な補助文献と中央・地方の各文書館の情報が網羅的に示されている。さらに後半部分では1934年以前に刊行された史料や個別論文も含めた研究文献の情報が各時代別に扱われている。

詳細な文献目録としては、公刊された著作物に関してのみの情報ではあるが、1771年から1950年にいたる目録として *Svensk historisk bibliografi* もある。これは、1950年以降、現在に至るまで、スウェーデン歴史協会(Svenska historiska föreningen)が年4回定期刊行している *Historisk tidskrift* 誌とリンクして、各年に出版された著作を紹介する形式がとられている。また、*Scandinavian Journal of History* 誌や *Scandinavian Economic History*

Review 誌にも、各年ごとに北欧で刊行された研究文献の目録がまとめられている。

グスタフ・アドルフ期のスウェーデン史研究に有用な文献情報は、いくつかの研究書の巻末の文献目録からも得ることができる。例えば、スウェーデン外交史研究の古典的著作である W. タム (W. Tham) の *Den svenska utrikespolitikens historia* の第1巻と第2巻の巻末(ここには1560～1648年までの外交史を中心とした研究文献の網羅的な目録がある)や J. ロセーン (J. Rosén) と S. カールソン (S. Carlsson) による *Svensk historia* の第1巻、G. ベーレ (G. Behre)、L.O. ラーソン (L.O. Larsson)、E. エステルベリ (E. Österberg) による *Sveriges historia* の巻末文献目録は、信用に足る目録である。ロセーンとカールソンによる著作は、スウェーデン史の概説として長らく定評のあるものだが、単なる概説書にとどまらず、各章末に付せられた文献目録には簡潔な紹介文もあり、先に挙げたプリングのハンドブック以降、1960年代初頭までのスウェーデン史研究の動向を要約して伝えてくれるものである。ベーレ・ラーソン・エステルベリによる概説書は、現在、スウェーデン本国でもっとも読まれている近世スウェーデンに関する概説であり、文献目録に関しても1960年代から1980年代にいたるまでの研究が紹介されている。しかしながら、ロセーンとカールソンの場合とは違い、単なる書誌情報がまとめられているだけである。

グスタフ・アドルフ期に関する研究文献の目録としては、古くはスウェーデン軍参謀部 (Generalstaben) が編纂・公刊した *Sveriges krig* の各巻の巻末文献目録が、最新の動向を含むものとしては S. オレッドソン (S. Oredsson) による *Gustav Adolf, Sverige och Trettioåriga kriget* の巻末文献目録などが網羅的にまとめられたものである。

#### 【非スウェーデン語による文献目録と研究動向紹介】

次にスウェーデン語以外で紹介された文献目録や研究動向紹介を挙げてみたい。英語で読むことのできる文献目録としては、イギリスにおける近世スウェーデン史研究の大家であった M. ロバーツ (M. Roberts) が1950年代に公刊した *Gustavus Adolphus* の第1巻・第2巻の巻末文献目録が、最新の動向は踏まえることはできないものの、もっとも網羅的な内容となっている。また彼には1973年に公刊した *Gustavus Adolphus* という小著もある。これは1992年に第二版が出され、紹介数は少ないもののこれに付された巻末の文献目録が、最近の研究動向を踏まえた英語による目録となろう。ドイツ語による研究動向紹介としては、初期ヴァーサ朝からグスタフ・アドルフ期にかけての諸問題を紹介した G. フォン・ラウヒ (G. von Rauch) や、三十年戦争とスウェーデンに関連したスウェーデンならびにドイツ史学界における研究動向を紹介した W. ブッフホルツ (W. Buchholz) の紹介文などが手短で有効である。「大国の時代」におけるスウェーデンに対するポーランドでの研究動向については、1960年にストックホルムで開催された国際歴史家会議で、W. シャプリンスキ (W. Czaplinski) により紹介された。またソヴィエト期のロシアにおける「大国の時代」のスウェーデン研究は、主に B.F. ポルシュネフ (B.F. Porshnev) を筆頭にバルト海貿易をめぐる研究が集中的に展開されたために、それらの研究動向に限定して L.V. シェレプニン (L.V. Cherepnin) がまとめている。

#### 2. グスタフ・アドルフ期に関する史料所収文献

この章では、グスタフ・アドルフ期を扱った刊行史料を集中的に紹介する。この時期を扱った刊行史料は、ここ20～30年の間に目立ったものは刊行されていないが、ここでは個別的なテーマで編纂された史料集は除外し、ごく一般的な刊行史料を紹介すること

とした。

まずグスタフ・アドルフ自身の書簡を編纂したものとしては、C.G. ステュッフエ (C.G. Styffe) の監修による *Konung Gustav II Adolfs skrifter* がある。これは、後に主要な書簡を選択する形で、C. ハレンドルフ (C. Hallendorff) により *Tal och skrifter af konung Gustav II Adolf* として再編集された。

この時期におけるスウェーデンの外交文書を編纂した史料集としては、*Sveriges traktater med främmande magter* の第5巻第1分冊があり、1572～1632年についての外交文書を網羅的に含んでいる。スウェーデン王国の王国参事会 (riksråd) の議事録は、*Svenska riksrådets protokoll* の第1巻から第12巻に所収されている。身分制議会 (rikstag) の議事録については、1611～1617年の分についてのみ、N. アーンルント (N. Ahnlund) の編纂した *Svenska rigsdagsakter* に収められている。また身分制議会の貴族部会について限定すれば、*Sveriges ridderskaps och adelsrigsdagsprotokoll* の第1巻から第3巻に、グスタフ・アドルフの治世全般にわたる議事録が所収されている。しかしながら、現時点において、聖職者・市民・農民身分の各部会に関する議事録は、刊行されていない。

近世スウェーデン史における一連の主要史料の刊行計画は、1888年にはじまったと考えてよい。その先駆けとなったのは、グスタフ・アドルフからクリスティーナ (Kristina) 治世期にスウェーデン王国の宰相を務めた A. オクセンシェーナ (A. Oxenstierna) の書簡編纂事業だった。ステュッフエと P. ソンデーン (P. Sondén) の監修のもとで 1888 年に刊行のはじまったこの企画は、*Rikskansleren Axel Oxenstiernas skrifter och brefväxling* と題され、1977年に完成した。これは、オクセンシェーナから出された書簡を集成した第1集12巻、オクセンシェーナへ送られた書簡を集成した第2集12巻からなる。特に後者のシリーズに関しては、グスタフ・アドルフからの書簡や訓令も数多く所収されており、グスタフ・アドルフ期研究のもっとも基礎的な史料として活用されている。

他にも、*Historiska handlingar* と題されて公刊されている一連の史料集には、見過ごすことのできない史料が含まれている。例えば、第25巻に所収されているストックホルム駐在のデンマーク外交官 P. ガルト (P. Galt) の報告に代表されるような、各国の駐スウェーデン外交官の報告書が存在する。第24巻には17世紀スウェーデン経済史上のキーパーソンである L.D. イェール (L.D. Geer) の書簡が、E.W. ダールグレン (E.W. Dahlgren) の編纂で所収されている。また、この史料集の第30巻には、一般的に“*Journal de Gustave Adolphe*”と呼ばれている、三十年戦争にグスタフ・アドルフが参戦した時期の戦場における一連の記録が、所収されている。

唯一、英語に翻訳された形で刊行されている史料集としては、上述のロバーツが編纂した *Sweden as a Great Power* がある。この史料集には、国制・社会・外交の各テーマに従って基本的な史料が整理されているが、所収されている史料は17世紀スウェーデンを知るために最低限のものが選択されているだけで、実際の研究では参照するに役立つ程度のものである。

さて、ここで紹介してきたグスタフ・アドルフ期のスウェーデンに関する史料の中で、このように刊行史料として編纂されたものはごく一部であり、多くは依然としてスウェーデン国内外の文書館に未刊行のまま保存されている。中心となる文書館は、ストックホルムにある王立アーカイブ (riksarkivet) であり、財政関連の史料は財政アーカイブ (kammararkivet) に、軍事関連の史料は戦争アーカイブ (krigsarkivet) に整理されている。この時

期の未刊行史料については、デンマーク・ドイツ・フランス・イギリス・オランダ・ポーランドはもとより、遠くハンガリーやルーマニア・スペインの文書館にも保存されている場合がある。17世紀のスウェーデンとロシアの経済関係に関する史料が、モスクワのロシア国立古代文書アーカイブの使節庁関連の史料に集中的に保存されているのが、その代表例である。

### 3. グスタフ・アドルフ期スウェーデンに関する概説

次に、グスタフ・アドルフ期のスウェーデンについての概説的な叙述を含む研究を紹介したい。

#### 【ドイツ・フランス・イギリスにおける概説】

まず、英語圏でもフランス語・ドイツ語圏でも、17世紀前半のヨーロッパ史に関する概説研究の類は、たいていの場合、グスタフ・アドルフ期のスウェーデンについて触れている。特に、三十年戦争の概説史となれば、グスタフ・アドルフによるドイツ侵攻に関して必ず触れられるものである。17世紀ヨーロッパや三十年戦争を扱った概説書を挙げれば枚挙にいとまがないが、ここでは三十年戦争の動向を概観できる研究書としては、古典的な業績としてC.V.ウェッジウッド(C.V.Wedgewood)やG.パジェス(G.Pagés)の概説を、最近の業績としてはG.パーカー(G.Parker)が編纂した研究を挙げておく。

ドイツにおける歴史研究では、グスタフ・アドルフ期のスウェーデンに関する研究は伝統的に盛んだった。それは、ドイツ社会への三十年戦争の影響というドイツ史における古典的なテーマに関して、スウェーデンのドイツ侵攻は欠くことのできないテーマの一つとしてドイツの歴史研究者に意識されてきたからである。19～20世紀のドイツにおけるグスタフ・アドルフと三十年戦争に関する研究動向については、上述のブッフホルツに詳しいのでここでは詳述しない。ここで簡単にドイツにおける古典的な研究を紹介するならば、グスタフ・アドルフ個人の業績については、J.パウル(J.Paul)による大著があるし、総合的な視野に立って簡潔にまとめた業績としてはO.ウェストファル(O.Westphal)の研究がある。1980年代以降の研究としても、F.ベルナー(F.Berner)によるグスタフ・アドルフ研究やG.バルディオ(G.Bardio)の一連の著作などが代表的なものになるう。

フランスの歴史学界でも、外交史研究の分野を中心にグスタフ・アドルフ期のスウェーデンが扱われている場合が多い。古典的研究としては、V.L.タピエ(V.L.Tapié)やG.アノトー(G.Hanotaux)らによるリシュリユー研究が、ブルボン王朝の対ハプスブルク政策というテーマと関連して、スウェーデンとの同盟関係や三十年戦争への参戦を検討していた。

イギリスでは、今世紀の非スウェーデン語圏における近世スウェーデン史研究の水準を飛躍的に高めたロバーツの業績を忘れることはできない。彼は、昨今欧米の近世史研究で再検討作業が盛んとなり、我が国の近世史研究にも紹介されつつある「軍事革命」論の提唱者としても有名であるが、彼の基盤は近世スウェーデン研究にあった。「大国の時代」と通称される17世紀のスウェーデン史を概観するには、「バルト海帝国」という視点に立ってスウェーデンの大国化を検討している *The Swedish Imperial Experience* がもっとも基本的な著作として薦められる。グスタフ・アドルフ期研究に関しては、上述した2巻本の大著が、英語で参照するには、現在でももっとも包括的な内容を含む研究であ

る。

### 【スウェーデンにおける概説】

次に、スウェーデン語による概説的な研究を紹介したい。すでに文献目録の箇所で紹介したように、ロセーンとカールソンによる概説、ペーレ・ラーソン・エステルベリによる概説が一般的である。これらの概説書は、この時期のスウェーデンを政治・経済・社会・文化の各方面から整理して論じているので、近世スウェーデン史を知る際には、まずこの二書を精読することを薦める。古典的な概説書としては他にも、*Sveriges historia genom tiderna* の第2巻が、この時期のスウェーデンに関して包括的な内容を含むものとして挙げられる。また *Den svenska historien* の第5巻は、図版が多用された概説であり有用である。

その他、それぞれの分野の概説を含む代表的な研究を、以下に紹介したい。

国制史については、混合王制論にたつて17世紀スウェーデン国家を総体的に論じている N. ルネビー (N. Runeby) の *Monarchia mixta* が、概説としてももっとも有用であろう。またグスタフ・アドルフを中心に進められた国制改革やそれら改革の背景にあった政治思想については、Å. ヘルマンソン (Å. Hermansson) の *Karl IX och ständerna* や L.F.R. グスタフソン (L.F.R. Gustafsson) の *Virtus politica* などが概説的内容に富む。しかしながら、これらは、王権による中央集権的な行財政制度の整備という研究史的にはもはや古典的となった見地からなされた研究であり、現時点ではその叙述の新鮮さにかける。財政史に限れば、H. ランベリ (H. Landberg) による *Statsfinas och kungmakt* は17世紀前半の状況を概括的に顧みるには最適な研究書である。また身分制議会・大貴族層・王権の関係を概説的に振り返るには、U. シューデル (U. Sjödel) の *Kungmakt och högaristokrati* や *Riksråd och kungliga råd* などとも有用である。

外交史に関しては、現在でもタムによる一連の著作が、概説として定評がある。

軍事史に関しては、すでに紹介したスウェーデン軍参謀部による *Sveriges krig* が、文章・図版による情報量の豊かさという点において、他のいかなる軍事史研究の追随を許さない。しかしながら、ブライテンフェルト会戦におけるグスタフ・アドルフ軍の戦術の革新性を主張するなど、その内容は旧来の軍事史の通説に従った分析であり、現時点で活用する際にはあくまでもグスタフ・アドルフの軍事的業績を概観するに役立つ程度のものである。その後の軍事史における新たな動向は、S. ルンドクヴィスト (S. Lundkvist) の一連の業績が参考になろう。

経済史に関しては、近世ヨーロッパ史の分野では重商主義に関する研究で古典的な業績を残した E.L. フィクシャー (E.F. Hecksher) が、*Sveriges ekonomiska historia från Gustav Vasa* を公刊していおり、現在でも、近世スウェーデン経済史を概観する上で最も基本的な文献として挙げられる。この著作は、スウェーデンが17世紀にバルト海地域で大国化した問題に、経済的側面から多面的な検討を加えている点に最大の特徴がある。また、これを要約した内容は、*Svenskt arbete och liv från medeltiden till nutiden* としても刊行されている。なお、後者を G. オーリン (G. Ohlin) が英訳したものとして、*An Economic History of Sweden* があり、英語で読むことのできる近世スウェーデン経済史概説としてはほとんど唯一のものといえる。

スウェーデンの教会史については、*Svenska kyrkans historia* と題された一連のシリーズがあり、このシリーズの H. ホルムクイスト (H. Holmquist) による第4巻第1部 *Svenska*

*kyrkan under Gustav II Adolf*が、今もってこの分野では定評ある内容を含む概説である。

スウェーデン史研究では、農民層が共有する自由と権利への比較的強固な意識の存在が特徴的であると繰り返し主張されてきたため、近世に限ってみても農村研究には厚みがある。とくに17世紀のスウェーデン農村社会を論じる場合には、貴族層の特権拡大傾向に対する伝統的な権利意識に根ざした農民層による抵抗の存在という研究視角上の二分法が強く研究者に意識されたため、そのような視点にたった研究が多く存在する。このような視点にたつて概説的にこの時期のスウェーデン農村社会を論じている研究としては、古典的業績としてA. ストリンドベリ(A. Strindberg)による *Bondenöd och stormaktsdröm* やE. インゲル(E. Ingers)による *Bonden i svensk historia*、E. ユティッカーラ(E. Jutikala)による *Bonden i Finland genom tiderna* などが挙げられよう。またK. オグレン(K. Ågren)による *Adelns bönder och kronans* も王権・貴族層・農民層相互の対立と協力関係を総体的にとらえた研究であり、この時期のスウェーデンの社会構造を知る際の概説として薦めることができる。また伝統的な諸身分の法概念を概観するには、G. インゲル(G. Inger)の *Svensk rättshistoria* がある。農民層の問題と関連して、近世北欧の家族史に関してはD. ガウント(D. Gaunt)による *Familjeliv i Norden* が一般的な内容に富む研究として挙げられよう。民衆史全般に関しては、多少古い文献ではあるが、*Svenska folket* の第4巻が概説として薦めることができる。また一般的な17世紀スウェーデン文化の概説としては、A. エレニウス(A. Ellenius)による *Konst och miljö* が包括的な叙述に富む。エリート層を中心とした教育史を概説的に振り返ることのできる研究としては、上述のガウントの *Utbildning till statens tjänst* やS. リンドロート(S. Lindroth)による *Svensk lärdomshistoria* の第2巻などがある。

#### 4. 研究雑誌・補助文献・その他(インターネット情報など)

最後に、この時期のスウェーデンを研究する際、最低限、目を通しておきべき研究雑誌の紹介と、人名辞典や百科事典、辞書といった実際の研究に役立つ情報を整理して提供したい。

##### 【研究雑誌】

研究雑誌では、スウェーデン歴史学界における中心的な学会誌として、*Historisk tidskrift* 誌がまず挙げられる。スウェーデン史を研究する際には、なによりもまずこの雑誌のバックナンバーに各自があたらねばならない。ただし、この雑誌は、基本的にスウェーデン語のみによる叙述である。*Historisk tidskrift* 誌と同様に、常に注意を払わねばならない研究誌としては、*Scandia* もある。*Scandia* には、巻末に英語やドイツ語といったスウェーデン語以外の言語による各論文の要約も付せられている。

スウェーデン以外の研究者にとって北欧史の研究動向を知る際に有用な雑誌としては、*Scandinavian Journal of History* 誌がある。この雑誌は、英語で発表された研究論文を中心に掲載しているが、各年度ごとにスウェーデンをはじめとする北欧諸国の歴史学界で発表された北欧語による研究の中から主要なものを選択し、英訳した論文も発表している。経済史の分野では、*Scandinavian Economic History Review* 誌があり、スウェーデン語以外の言語による研究論文も掲載されている。これらの研究誌は、基本的に年4回の刊行である。

また、わが国でも、バルト＝スカンディナヴィア研究会から毎年1回、『北欧史研究』

が刊行されている。

### 【補助文献】

スウェーデン史を研究する際、スウェーデン語の理解は必須となるが、スウェーデン語辞典で現在定評があるものは、ノールシュテット (Norstedt) 社が刊行しているスウェーデン語・英語、スウェーデン語・ドイツ語、スウェーデン語・フランス語、スウェーデン語・スウェーデン語などの一連の辞典であろう。ノールシュテットのスウェーデン語・英語、英語・スウェーデン語大辞典などは Windows 版の CD-ROM としても刊行されており、Windows を OS とするパーソナルコンピュータを利用しているならば、検索も容易にできる。ただし、スウェーデン語の表記や文法は時代による変化が大きい。基本的な文法は近世のスウェーデン語もかわらないが、単語の表記などはかなり異なる場合もあるので、現在の辞典でそれらの意味を検索することは困難である。しかしながら、こうした古いスウェーデン語を理解するために有用な辞典は現時点では存在しない。なお、実用に耐えうるスウェーデン語・日本語辞典としては、大学書林からスウェーデン語辞典が刊行されているくらいである。

北欧社会全般の情報を網羅している百科事典として現在でも定評があるものは、*Svensk uppslagsbok* である。スウェーデン史に関して情報を提供してくれる百科事典としては、J. メリン (J. Melin) による *Sveriges historia* が、1997 年に刊行された。また、17 世紀のスウェーデン史に登場する人物を知るために有用な人名事典としては、*Svenskt biografisk lexicon* が定評のある事典で、現在では CD-ROM でも供給されており、パーソナルコンピュータからの検索も可能となっている。こうした事典の類で、英語で記述されているものとしては、*Dictionary of Scandinavian History* や *European Historical Dictionaries* シリーズの第 7 巻として企画された *Historical Dictionary of Sweden* もあるが、情報量は少ない。

### 【その他】

最後に、インターネット上で研究に有用な情報を公開しているサイトを紹介する。なおここで紹介する URL は 1998 年 4 月 30 日時点のものであり、その後変更されている可能性もあるので、注意していただきたい。

まず、スウェーデンの各大学・研究機関などを一覧できるサイトとして SUNET-Swedish University Network (<http://www.sunet.se>) がある。特に、カテゴリー別に整理された WWW-katalog (<http://www.sunet.se/sweden/main-sv.html>) は、スウェーデンに置かれたサイトを検索するには有効である。次に王立図書館 (Kungl. biblioteket) が運営している LIBRIS (<http://www.libris.kb.se>) を紹介したい。これは、王立図書館をはじめとするスウェーデン国内の図書館、主要な研究機関が所蔵する文献の書誌情報を Web 上から検索できるサイトである。特に、歴史に関しては、*Svensk historisk bibliografi* (<http://www.libris.kb.se/svensk.historisk.bibliografi.html>) として書誌情報のデータベースが個別に構築されている。また、この LIBRIS の運営元である Kungl. Biblioteket のサイト (<http://www.kb.se>) からは、*Akademibokhandeln* (<http://www.akademibokhandeln.se>) など、Web 上で新刊書籍を購入できるサイトがいくつか紹介されている。また、スウェーデンはナポレオン戦争以来、現在に至るまで戦争を行わなかったこともあって、古書の保存状態がよく、流通も大変盛んであり、多少古い文献でも入手しやすい。インターネット上でスウェーデンにおける代表的な古書店を検索するには、*Svenska antikvariatforeningen* のホームページ (<http://>

www.svaf.se)が有用である。ここからリンケージされているいくつかの古書店ではカタログも Web 上で公開されており、E-mail を通じての購入に応じている。

### おわりに

近世スウェーデン史研究に関してこのような研究上の道具の類を紹介する試みは、わが国で最初のものであろう。そこで、この試みを通じて意識したスウェーデンとわが国の歴史学界の違いについて最後に触れておきたい。それは、スウェーデン歴史学界では、わが国のように研究動向や出版状況の節目となる第二次世界大戦などの時代的な区切りが、19世紀以来存在していないということである。19世紀中葉に実証主義的な歴史学研究が定着して以来数多くなされてきた研究は、現在でも容易に古書店などを通じて手にすることができる。しかも、たとえ刊行された年が古くても、現在でも評価の高い研究が存在する。今回、このような文章をまとめるにあたって、概説の類を中心に、古い研究が多く紹介されているが、そこには歴史学界の動向や出版状況が日本とは異なるスウェーデンの事情がある。

本来ならば、この場で紹介されてしかるべき文献はほかにも数多く存在する。そのような文献を紹介できなかつたり、最新動向への配慮が不足していたりといった欠点については、情報を処理しきれなかった筆者にすべての責任があることを明記し、専門家諸氏の訂正と補足を賜りたい。

### 《文献一覧》

- Ahnlund, N. (utg.), *Peder Galts Depescher 1622-1624*, Stockholm 1920.  
 Ahnlund, N. (utg.), *Sveriges rigsdagsakter*, Stockholm 1943, 1954.  
 Arbmán, H., *Sveriges historia genom tiderna*, Bd.2, Stockholm 1948.  
 Bardio, G., *Gustav Adolf der Grosse. Eine politische Biographie*, Frankfurt am Main 1982.  
 Bardio, G., *Der Teutsche Krieg 1618-1648*, Frankfurt am Main 1985.  
 Behre, G., Larsson, L.O., och Österberg, E., *Sveriges historia 1521-1809*, Stockholm 1985.  
 Belfrage, N., Zeeh, E., *Dagbok förd i det svenska fältkansliet 26 maj 1630-6 november 1632 (journal de Gustave Adolphe)*, Stockholm 1940.  
 Berner, F., *Gustav Adolf. Der Löwe aus Mitternacht*, Stuttgart 1982.  
 Bergh, S., Taube, B. (utg.), *Sveriges rikets ridderskaps och adels riksdagsprotokoll*, Bd.1-3, Stockholm 1904-1906.  
 Bergh, S., Kullberg, N.A. (utg.), *Svenska riksrådets protokoll*, Bd.1-12, Stockholm 1877, 1880, 1885.  
 Bring, S. E., *Bibliografisk handbok till Sveriges historia*, Stockholm 1934, rep.1945.  
 Buchholz, W., "Der Eintritt Schwedischens in den Dreissigjährigen Krieg in der schwedischen und deutschen Historiographie des 19. und 20. Jahrhunderts.", *Historische Zeitschrift* 1987.  
 Carlsson, S., Rosén, J., *Svensk historia*, Bd.I, Stockholm 1962.  
 Carlsson, S., Cornell, J., Grenholm, G., Rosén, J., *Den svenska historien*, Bd.5, Stockholm 1993.  
 Cherepnin, L.V., "Russian 17<sup>th</sup>-century Baltic trade in Soviet historiography.", *Slavonic and East European Review*, 43 1964-65.  
 Czaplinski, W., "Le problème baltique aux XVI<sup>e</sup> et XVII<sup>e</sup> siècles.", *XI<sup>e</sup> Congrès international des Sciences historiques Stockholm 1960*, Uppsala 1960.  
 Dahlgren, E. W., *Lois De Geers brev och affärshandlingar 1614-1652*, Stockholm 1924.  
 Elfstrand, P. (utg.), *Svensk historisk bibliografi 1936-1950*, Stockholm 1964.



- Ellenius, A., "Konst och miljö.", S.Dahlgren (utg.), *Kultur och samhälle i stormaktstidens Sverige*, Uppsala 1967.
- Gaunt, D., *Utbildning till statens tjänst*, Uppsala 1975.
- Gaunt, D., *Familjeliv i Norden*, Stockholm 1983.
- Generalstaben, *Sveriges krig 1611-1632*, 8Bd., Stockholm 1936-1936.
- Gustafsson, L.F.R., *Virtus politica. Politisk etik och nationellt svärmeri i den tidigare stormaktstidens litteratur*, Uppsala 1956.
- Hallendorff, C., Rydberg, O.S. (utg.), *Sveriges traktater med främmande magter*, Bd.5:1-3, Stockholm 1902-1903.
- Hallendorff, C. (utg.), *Tal och skrifter av Gustav II Adolf*, Stockholm 1915.
- Hanotaux, G., *Histoire du cardinal de Richelieu*, 7vols, Paris 1893-1947.
- Heckscher, E.F., *Sveriges ekonomiska historia från Gustav Vasa*, Bd.1-2, Stockholm 1935.
- Heckscher, E.F., *Svenskt arbete och liv från medeltiden till nutiden*, Stockholm 1941.
- Heckscher, E.F., *An Economic History of Sweden*, Cambridge 1954.
- Hermansson, Å., *Karl IX och ständerna. Tronfrågan och författningsutvecklingen i Sverige 1598-1611*, Uppsala 1962.
- Holmquist, H., "Svenska kyrkan under Gustav II Adolf 1611-1632.", Holmquist, H., Pleijel, H. (utg.), *Svenska kyrkans historia*, Bd.4, Stockholm 1938.
- Ingers, E., *Bonden i svensk historia*, Bd.1, Stockholm 1943.
- Inger, G., *Svensk rättshistoria*, Uppsala 1980.
- Jutikkala, E., *Bonden i Finland genom tiderna*, Helsinki 1958.
- Kongl. Vitterhets-, historie- och antikvitets-akademien, (utg.), *Rikskansleren Axel Oxenstiernas skrifter och brefväxling*, Förra avdelningen, Bd.1-12, Senare avdelningen, Bd.1-12, Stockholm 1888-1977.
- Landberg, H., *Statsfinans och kungmakt. Karl X Gustav inför polska kriget*, Uppsala 1969.
- Lindroth, S., *Svensk lärdomshistoria*, Bd.2, Stockholm 1975.
- Lundkvist, S., "Slaget vid Breitenfeld 1631.", *Historisk tidskrift* 83, 1963.
- Lundkvist, S., "Svensk krigsfinansiering 1630-1635.", *Historisk tidskrift* 86, 1966.
- Melin, J., *Sveriges historia*, Stockholm 1997.
- Norstedts stora svenska engelska ordbok, Andra upplagan, Stockholm 1994.
- Norstedts stora svenska engelska ordbok, Andra upplagan, Stockholm 1994.
- Oredsson, S., *Gustav Adolf, Sverige och Trettioåriga kriget*, Lund 1992.
- Pagés, G., *La guerre de trente ans*, Paris 1939.
- Parker, G. (ed.), *The Thirty Years' War*, London 1st ed 1984, 2nd ed. 1996.
- Paul, J., *Gustav Adolf*, 3vols, Leipzig 1927, 1930, 1932.
- Rauch, G.v., "Zur Geschichte des schwedischen Dominium Maris Baltici", *Die Welt als Geschichte*, vol.12, 1952.
- Roberts, M., *Gustavus Adolphus: A History of Sweden, 1611-1632*, 2vols., London 1951-1958.
- Roberts, M. (ed.), *Sweden as a Great Power, 1611-1697*, London 1968.
- Roberts, M., *Gustavus Adolphus*, London, 1st ed.1973, 2nd ed.1992.
- Roberts, M., *The Swedish Imperial Experience 1560-1718*, Cambridge 1979.
- Runeby, N., *Monarchia mixta. Maktfördelningsdebatt i Sverige under den tidigare stormaktstiden*, Uppsala 1962.
- Setterwall, K. (utg.), *Svensk historisk bibliografi 1771-1874*, Stockholm 1937.
- Setterwall, K. (utg.), *Svensk historisk bibliografi 1875-1900*, Stockholm 1907.
- Setterwall, K. (utg.), *Svensk historisk bibliografi 1901-1920*, Stockholm 1923.
- Sjödell, U., *Kungmakt och högaristokrati. En studie i Sveriges inre historia under Karl XI*, Uppsala 1966.

- Sjödell, U., *Riksråd och kungliga råd. Rådskarriären 1602-1718*, Uppsala 1975.
- Sjögren, P. (utg.), *Svensk historisk bibliografi 1921-1935*, Stockholm 1956.
- Strindberg, A., *Bondenöd och stormaktsdröm*, Stockholm 1937.
- Styffe, C.G. (utg.), *Konung Gustav II Adolfs skrifter*, Stockholm 1861.
- Svensk folket genom tiderna*, Bd.4, Malmö 1939.
- Svensk uppslagsbok*, 30 vols., Malmö Första upplagan 1929-1937, Andra upplagan 1947-1955.
- Svenskt biografiskt lexikon*, Bd.1-, Stockholm 1918-.
- Tapié, V.L., *La politique étrangère de la France et le début de la guerre de trente ans, 1616-1621*, Paris 1934.
- Tapié, V.L., *La France de Louis XIII et de Richelieu*, Paris 1952.
- Tham, W., *Den svenska utrikespolitikens historia*, Bd.1-2, Stockholm 1960.
- Wedgwood, C.V., *The Thirty Years War*, London 1938, rep. London 1994.
- Westphal, O., *Gustav Adolf und die Grundlagen der Schwedischen Macht*, Hamburg 1932.
- Ågren, K., *Adelns bönder och kronans. Skatter och besvär i Uppland 1650-1680*, Uppsala 1963.
- 尾崎義・田中三千夫・下村誠二・武田龍夫、スウェーデン語辞典、大学書林、1990年